

| | |
|---------|--|
| 氏名 | 植 木 宏 明 |
| 学位の種類 | 医 学 博 士 |
| 学位授与番号 | 乙 第 295 号 |
| 学位授与の日付 | 昭和43年 6 月30日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当) |
| 学位論文題目 | 皮膚科領域における蛍光抗体法の応用 第1報 人皮膚病変部における組織結合性γ-globulinの局在 について 第2報 紅斑性狼瘡皮膚における表皮-真皮接合部PAS陽 性物質の免疫組織化学的研究 |
| 論文審査委員 | 教授 谷 奥 喜 平 教授 小 川 勝 士 教授 妹尾左知丸 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

正常および各種皮膚病変部における人ガンマグロブリンの局在を蛍光抗体法を応用して検討した。正常人皮膚では真皮乳頭層に一致してヒマン性に人ガンマ・グロブリンの沈着を認めたが、これと一致して人アルブミンの分布もみられ、恐らく血漿蛋白質由来と考えられる。病変部皮膚では紅斑性狼瘡で、一部の細胞核、表皮真皮接合部、小血管壁、真皮深層のフィブリノイド変性部位、紅色扁平苔癬で表皮顆粒層に、湿疹類で表皮内水疱部に一致して人ガンマ・グロブリンの沈着を認めた。

次に紅斑性狼瘡の皮膚基底膜部位を中心に検討を加えた。本症では肥厚した基底膜部位に一致して著明なPAS-陽性物質の沈着を認めるが、これは同時に人ガンマ・グロブリン、アルブミンを含み、又フィブリン染色も陽性を示した。

紅斑性狼瘡では新鮮病変部でまず、基底膜の膨化、断裂が起こり、ついには消失するが、やがて陳旧病変部に移行すると上述の人ガンマ・グロブリンを主体としたPAS-陽性物質の沈着がみられ、一部では卵円形滴状物となって吸収され、局所の修復を行ない、他のものは再燃化の過程を繰り返す。

(第1報 昭和42年2月 日本皮膚科学会誌 第77巻 第2号に掲載)

(第2報 昭和43年7月 日本皮膚科学会誌 第78巻 第7号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は、皮膚科領域における蛍光抗体法の応用について研究したものである。蛍光抗体法を応用して各種皮膚病変部におけるガンマ・グロブリンの局在を検べ、一般組織化学的手法を併用して検討を加えた。特に紅斑性狼瘡皮膚で表皮、真皮間基底膜部に著明なガンマ・グロブリンの沈着を認め、強いPAS反応性を示した。以上の通り、本論文は新しい知見に富み、重要な業績であると認める。よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。